

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会

〒771-0017徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
携帯 090-2891-5189
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2016年12月3日 212

学校に司書を配置して豊かな教育を！

教職員の会の総会で、学校司書の配置を求める意見が出されていました。子どもたちがゆとりをもってじっくりと学び、子どもたちの豊かな心が育つうえで、学校図書館（室）は重要なものです。しかし、多くの学校では、特別な場合以外は、「開かずの図書館」となっています。この問題を解決するうえで、学校司書の配置が不可欠です。

学校図書館法 司書を「置くよう努めなければならない」

学校図書館法には、「学校司書」を「置くよう努めなければならない」とあります。司書配置を怠っている責任は重大です。

まだまだ低い配置率

文科省の「平成28年度学校図書館の現状に関する調査」では、公立学校の学校司書の配置率は下記の通りです。本来100%であるべきなのに、60%前後です。

・小学校 59.3 % (54.5)	・中学校 57.3 % (52.8)	・高校 66.9 % (66.5)
* () 内は平成26年度		

常勤の司書は小・中学校では約1割

平成28年度の常勤の司書配置率は、小学校で12.1%、中学校で13.6%、高校で55.3%です。

平成28年度当初予算の全国1741市町村（悉皆調査）では、配置がある場合の雇用形態は以下になっています。

・正規職員 1.6 %	・臨時・嘱託等 84.3 %
・正規及び臨時・嘱託の両方 6.3 %	・民間の業者等の委託・派遣 5.5 %
・公共図書館の職員が兼務 3.1 %	・無回答・その他 1.0 %

全国平均よりも低い徳島県内小・中の配置率

徳島県の司書配置率は下記の通りです。

・小学校 50.3 % (2.7)	・中学校 48.8 % (3.6)	・高校 96.9 % (100.0)
* () 内は平成26年度		

平成26年度は、高校は100%の配置率でしたが、小・中学校は、全国最下位グループでした。この2年間で急速に配置が進みましたが、今なお、全国平均より低い状況です。

全ての学校に司書の配置を求める運動が重要

学校図書館法を「学校司書をおかなければならない」と改正する運動と未配置の市町村に配置を求めるよう要求していく運動が重要になっています。

日本平和大会 (in三沢 10/22～23) に参加して

「自衛隊員を南スーダンに送るな！」地元青森で熱気の大会



昨年の「安保関連法」により新たに PKO の「駆けつけ警備」の任務で南スーダンに派遣されようとしているのは、青森の第9師団第5普通科連隊。会場の三沢市公会堂は、地元青森の参加者で立ち見も出る超満員。地元の新婦人は、「組織の存在意義をかけて自衛隊を南スーダンに送らせない」と熱い決意。

自衛隊員の息子を持つ平和子さん(北海道。写真左)は、息子を守りたいと活動を始める。しかし、息子から「母さんクビになるからお願いだから活動をやめて」といわれた。彼女悩んだ末に、「息子に死なれるのが何より辛い」と、息子と“絶縁”する道を選んだ。1週間かけて書いた絶縁状には「あなたは、自分のところに生まれてくれた宝物、お嫁さんと子どもを全力で守り抜き、天寿を全うしてください」と書いたと、涙ながらに訴えた。

日本を守らず、他国を攻撃する在日米軍

三沢基地には、アメリカ空軍の F16 が 40 機、配備されている。1985 年にソ連への核攻撃を任務として配備されたアメリカ太平洋軍唯一の「敵防空網制圧部隊」である。日本では、レーダー網をかくくぐる低空飛行訓練を繰り返し(このため 12 回の墜落事故)、2003 年、2007 年には、イラク、アフガニスタンへ出撃し、空爆を繰り返した。

開会集会で上映されたリラン・バクレー監督の「三沢レポート」では、航空祭の日に、基地内で米兵にインタビュー。「どこへ出撃したのか」と聞くと、「シリア、ヨルダン」と答え、「何しに行ったの？航空ショー？」に「爆撃」と答える。現在行われている IS への空爆にも参加していることがはっきりした。

三沢では、F16 の配備後、騒音・振動が激しくなり、1988 年度から 2010 年度までに 1300 戸あまりが移転。右の写真は、最初の移転地区・四川目地区を金比羅神社から遠望。ただの草原だが、移転前には 388 世帯が暮らしていた。墓と神社を残して、小中学校も移転。今は、防衛省の管理地。現在残っている他の地区も、騒音がひどいので、NHK の受信料は半額免除だそう。

【県立航空科学館に展示されているF16】



(阿波・吉野川ブロックⅠ)

障害者問題を考える四国集会（in徳島）， 90名の参加で大きく成功！



11月26日ろうきんホール（徳島市南末広・中央テクノスクール内）を会場に開かれた「第43回障害者問題を考える四国集会（in徳島）」は、約90名の参加を得て大きな成功をおさめました。参加者のうち15名は香川，愛媛，高知から，岡山からの参加者も1名ありました。

記念講演講師としてお迎えした楠凡之氏（北九州大学文学部人間科学学科教授）の講演が午前，午後と2回設けられ，中身の濃い学習・交流の場となりました。午前中の特別講座「困難な状況に置かれた保護者とどうつながるか」では，無理なことを言ってくる保護者の要望と本音をしっかり捉え，要望＝「担任の先生を代えてほしい」などはよく聞き，本音＝「子どもに安心して学校に通ってほしい」にしっかり対応することで信頼関係を築くこと，午後からの講演「発達障害に対する理解と支援」では，いろいろな方法や教具が用いられるようになってきたが，教師の働きかけが「子どもへの支援」ではなく「子どもをコントロールしようとする行為」になっていないか注意し，子どもとの間に「安全地帯」と言えるような信頼関係を築くことの大切さなどが話されました。

午後からは分科会。第1分科会（保育・教育）では，講演の内容を裏付けるような徳島県内の小学校の実践がレポート報告されました。第2分会（成人期・作業所）では，障害者に対する社会保障が介護保険制度に統合されようとする動きになどについて話し合われました。

会場スタッフとしてご協力いただいた会員の皆さんに，実行委員会のメンバーとして紙面を借りて御礼申し上げます。（H）

楠先生のお話は，クレスコ（大月書店）でも絶賛連載中！！ご一読下さい。クレスコの申し込みは教職員の会まで。

力を合わせると「楽しい」！

～秋の「ひまわり学校」～



徳島県生活指導研究会と新婦人県本部，呼びかけに応じた教員有志でつくる実行委員会は，11月20日，勝浦町で「2016秋のひまわり学校」を開き，0歳から中学2年までの子どもたちなど107人が参加しました。

子どもたちは4つの班にわかれて活動し，かまどでの豚汁づくりやみかん狩り，集団遊び（「石積み競争」や「石1kg」），水切りなどの河原遊びに歓声をあげていました。



班活動のスタートは，「かまどづくり」でした。子どもたちどころか，教員や保護者のなかでも「石を積んでかまどなんか，つくったことない」状況でしたが，試行錯誤の末，無事，どの班も豚汁を炊きあげることができました。小さな子どもたちもたくさん参加していたので，中学生や小学校高学年の「班長さん」たちの活躍の場面も結構あったと思います。

参加・協力いただいた教員の皆さん，ありがとうございました。お疲れさまでした。

（特別支援教育ブロックH）

「望年会」を 開催いたします。

日時：12月28日（水）18:00～

場所：郷里

参加希望者は担当 河野さん

（Tel 090-9456-3369）に
12月26日までにご連絡下さい。

保護者との いい関係

北九州市立大学
楠凡之



9

境界性パーソナリティ 障害の保護者

その2

くすのき・ひろゆき

1960年大阪生まれ。北九州市立大学文学部人間関係学科教授。専門は臨床教育学、家族援助論。著書に「『気になる保護者』とつながる援助——『対立』から『共同』へ」「『気になる子ども 気になる保護者——理解と援助のために』（以上、かもがわ出版）、「自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と学級づくり」「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」（以上、高文研）ほか。